

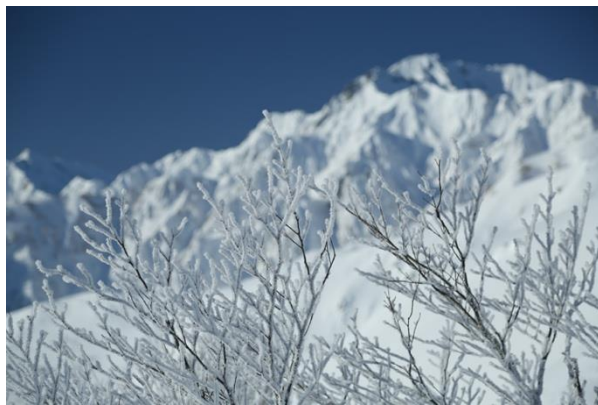
関係者各位

2020年11月27日  
八方尾根開発株式会社

**白馬八方尾根スキー場、ゲレンデ内約 50%のゴンドラ・リフトを CO<sub>2</sub>ゼロ運行へ  
～ 世界に誇る国際山岳リゾートの未来へ向けた SDGs ～**

八方尾根開発株式会社（本社：長野県北安曇郡白馬村、代表取締役：倉田 保緒）が運営する「白馬八方尾根スキー場」は、国際山岳リゾートとして美しいふるさとの姿を未来へ継承するため、「持続可能な開発目標」（SDGs）への取り組みを本格的に始動します。まずは 2020 年 12 月 1 日（※）より、ゲレンデ内のリフトの約 50%を CO<sub>2</sub>フリーエネルギーに転換して運行いたします。本取り組みにより、年間で 295 トンの CO<sub>2</sub>排出量の削減が可能となります。

※積雪状況により変更の場合がございます。



2015 年 9 月の国連総会で「持続可能な開発目標」（SDGs）が採択されてから 5 年目を迎える 2020 年。持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（SDSN）とドイツの財団法人ベルテルスマン財団が毎年公表する各国の達成状況を分析した報告書「SDR2020」によると、国連加盟 193 カ国のうち、日本は 17 位で前年比 2 ランクダウンしています。菅義偉首相は 2020 年 10 月の所信表明演説で、“2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標”を宣言し、国内での温暖化対策が加速することが期待されています。

白馬八方尾根スキー場がある長野県白馬村でも気候変動による暖冬の影響で雪不足という見過ごせない課題に直面しています。村内では産学民が地域一体となって持続可能なまちづくりに向けた啓蒙活動に励んでおり、2019 年 4 月に白馬村は気候非常事態宣言を表明。白馬八方尾根スキー場が加盟する、一般社団法人 HAKUBAVALLEY TOURISM も 2020 年 10 月に SDGs 宣言を表明しました。

**世界に誇る国際山岳リゾートが目指す SDGs**

白馬八方尾根スキー場は、総滑走距離約 23,000m、最長滑走距離約 8,000m、高低差 1,071mの日本有数の規模を誇り、1998 年に開催された国際的な冬季スポーツ大会の舞台にもなりました。降雪量と上質なパウダースノーに加え、エキスパートのスキーヤーが多数輩出されていることから国内外で高評価のスキー場です。

しかしながら、地球温暖化や異常気象が叫ばれる近年、当スキー場においても人工降雪機で雪を作る必要に迫られる場面があり、またリフトを動かすことで多くの CO<sub>2</sub>を排出してきました。大自然の恩恵を受けるスキー場として環境負荷を軽減し、日本の豊かな四季を守り育て、美しいふるさとの姿を未来へと受け継ぐべく、国内スキー場では珍しい SDGs 専門の部署を立ち上げ、「持続可能な開発目標」(SDGs) の活動を本格始動いたします。

<https://www.happo-one.jp/sdgs/>

## CO<sub>2</sub>ゼロでのリフト運行を目指して

当スキー場には現在、全 20 基のリフトが運行しています。この度、12 月 1 日 (※) より、以下 9 基のリフトを再生可能エネルギーに転換し、通年で CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指します。

※積雪状況により変更の場合がございます。

### 【対象リフト】

- ・黒菱第 2 クワッド
- ・黒菱第 3 ペア
- ・国際第 1 ペア
- ・国際第 3 ペア A、B
- ・咲花第 2 ペア
- ・北尾根第 3 ペア
- ・咲花北尾根クワッド
- ・スカイライン第 2 ペア

(以上 9 基、年間使用量：692,218kwh、CO<sub>2</sub>排出量：295 トン)



本取り組みにより、約 50%のリフトが CO<sub>2</sub>ゼロで運行可能となり、年間で 295 トン相当の CO<sub>2</sub>排出量の削減が可能となります。

※一家庭あたりの年間平均 CO<sub>2</sub>排出量：約 4,150 kg (全国地球温暖化防止活動推進センター「家庭からの二酸化炭素排出量 (2018 年度)」より)

今後は、さらに多くのリフトの CO<sub>2</sub>ゼロ運行を目指すとともに、ゲレンデ内レストラン施設や温泉施設などにおいても再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを進めてまいります。

降雪と圧雪の効率的な運用を目的としたシステムを試験的に導入予定。走行システムを圧雪車に搭載することにより、無駄のない人工降雪で電気量や燃料の削減を実現し、環境に負荷のかからない対策を推し進めます。



## 地産地消の推進と環境負荷の低減

一部レストラン施設では、白馬や信州産の食材を使って地産地消を推進。地元で生産されたものを地元で消費することで、資源保護に留まらず、運搬時に発生する CO<sub>2</sub>の削減に貢献します。また、スキー場内においてペットボトルの提供廃止を進め、プラスチックごみの削減に励んでいます。

## POW Japan と共に目指す、スノーコミュニティ発 脱炭素社会の実現

2020年6月、世界のスノーシーンをリードしてきたプロスノーボーダーのジェレミー・ジョーンズが創設したムーブメントである「Protect Our Winters Japan (以下「POW Japan」)」とパートナーシップを締結。共に気候変動問題に取り組み、スノーコミュニティ発の脱炭素社会の実現に向けて活動を行っています。誰もが気軽に、SDGs に関心を向ける契機になればとの思いから今後、SNS を活用したキャンペーンを予定しています。

白馬八方尾根スキー場は今後も、後世に美しいふるさとの姿を継承できるよう、国際山岳リゾートとして地域と共に環境問題に尽力してまいります。2021年グリーンシーズンには、自然を通して SDGs を学ぶプログラムの開催を予定しています。

### 【白馬八方尾根スキー場の概要】

TEL : 0261-72-2715

公式 HP : <https://www.happo-one.jp/>

アクセス：東京から約2時間30分、名古屋から約3時間30分、関西から約4時間30分、最寄 IC (長野 IC、安曇野 IC、糸魚川 IC) から幅広道路で約60分

### 【会社概要】

会社名：八方尾根開発株式会社 Happo-one Kaihatsu Co.,Ltd.

代表：代表取締役 倉田 保緒

住所：〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村大字北城 5713

設立：1960年(昭和35年)12月9日

事業内容：白馬八方尾根スキー場(スキー場一般 / 索道事業・飲食業)および温泉事業(白馬八方温泉)、索道施設16基、飲食店舗4店舗、公衆浴場4施設

### 【白馬八方尾根スキー場のSDGsの取り組み】

スキー場事業は「雪」と「山」という大自然の恵みをお客様に味わっていただくことで成立しています。しかし、近年の地球規模での気候変動の影響で、世界で最も豊富な降雪量を誇るエリアの一つである白馬においても小雪による影響が出始めています。

こうした中、白馬八方尾根スキー場は今後の事業運営において、「持続可能な開発目標」(SDGs)に賛同し、スキー場運営を通してより良い自然環境を作り出すことに貢献いたします。具体的な取り組みについては、下記 URL をご参照ください。

<https://www.happo-one.jp/sdgs/>

また、この取組の推進に当たっては、Protect Our Winters Japan (POW Japan) と効果的な連携をしております。

 SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS POW  
PROTECTOURWINTERS.JP

《本件に関するお問い合わせ先》

八方尾根開発株式会社 担当：太田・松沢

TEL : 0261-72-2715 FAX : 0261-85-2871 Mail : [sdgs@happoone.co.jp](mailto:sdgs@happoone.co.jp)